



《発行所》  
 青山同窓会  
 〒951-8127 新潟市関屋下川原町2-635  
 新潟県立新潟高等学校内  
 TEL 025-266-5268  
 FAX 025-266-5268  
 《編集、発行人》  
 上村光司  
 《印刷所》  
 オリオン印刷 株式会社  
 〒950-0963 新潟市南出来島1-19-1  
 TEL 025-283-2151  
 FAX 025-283-3804

# ごあいさつ

青山同窓会会長 50回 上村 光司



年が改まりました。一九九

と九が三つ並んで、来年は二が頭になる。後世はこの世紀末について、どのような形容語を付けるのでしょうか。それはともかく、本当に一陽来復が待ち遠しく、またそうなるように努力しなければなるまいと思っております。

母校は本校舎の新築が出来上がりました。なかなかの感容です。かねてからご説明している、新しい校舎に後輩のために役立つものを贈り、それを創立百十周年の目玉事業にしたい、ということに関して、さきごろ同窓会、PTA、学校の三者で「校舎竣工および創立百十周年記念

事業実行委員会」を設けました。何を贈るかについては、学校としてもいろいろ希望があるようなので、まず学校にそのあたりを整理してもらってから、具体的検討に入る予定です。

同窓各位からまたお力添えをいただきかねばならず、時節がらまことに恐縮ですが、よろしくお願いたします。

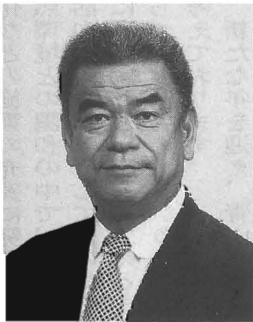
ところで今回の校舎新築は、快速で進行し、いい時期に納まってくれたという思いです。不況が始まってはいいたものの、県政が現在ほど苦しくならぬ間に立案、短期間完了の方針で進められました。これが二、三年遅かったらどうなったか。予算規模は抑えられ、全体完成までの年数も延びていたのではないかと、郊外の広大な新天地へという選択肢もあつたかも知れませんが、それでは何時のことになるか、

見当もつかずにいるのではないかと「めでたし、めでたし」、ご尽力くださった要路の方々にお礼を申し上げる次第です。

東京と関西の活動状況は別稿のとおりですが、東京青山同窓会は、会長が斎藤伸雄さん(44回)から栗林貞一さん(59回)にバトンタッチされました。ご存じのように栗林さんは海上保安庁長官から日本航空へ、同副

## 年頭のご挨拶

衆議院議員 66回 吉田六左工門



青山同窓会の諸兄、明けましておめでとうございます。昨年は皆様のお陰で衆議院に席を置かせていただき九二年、

社長を経て日本アジア航空のトップでご活躍中。在京同窓はもちろん新潟の私どもとしても心強く、ありがたく思っています。斎藤さんには長い間、東京同窓会の充実にご尽力いただきましました。お礼申し上げます。

また関西は京都大学法学部教授の佐藤幸治さん(64回)が会長を引き受けてくださいました。専攻の憲法学では最も注目されている存在ですし、国の行政改革委員会のメンバーとして、この国の政治システム、国民意識の在り方など、積極的な提言をしていらつしゃいます。

皆さま、健康に注意され、充実した日々を重ねられますようお祈りいたします。

大過なく、そして自分なりの手応えを感じながら過ごさせていただけました。国に振りかかる難題はあまた、これらに順番を付けることは許されません。しかし、根本は皆様の生命・財産これを守ることです。国として国が栄えることです。国際関係が常に緊張し、あちこちにその歪みが起こるとき、極東アジアもその一か所です。



新校舎

こうしたなかで新潟市がこの一年「少子化対策」、この解決がこれからの市政にも大きな影響を及ぼすものと思えます。その方策として、①子育ての経済負担を取り除く②教育にかかる経費を大幅に減ずる。これに尽きると考えます。生まれてきた子供は国の宝で、根本的には国家がこの子の育つ最終的保証人であり、次時代の繁栄に向

けてこれに勝る投資はありません。そして、新時代の全てに立ち向かい解決する最大のテーマは「スピード」であります。志しあらば今日今夜来い明日になれば皆来る。先の見通しをつけて、本学発展のために共に努力しましょう。

同窓各位の平安と活躍を祈り、会報にご挨拶を授かり、ありがたく感謝いたします。

# 新年のご挨拶

新潟市長 61回 長谷川義明



青山同窓生の皆さん、あけましておめでとうございます。

この一年が、皆さんにとって健やかで幸多い年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

諸先輩の皆様をはじめ、同窓の方々が全国各地で、様々な分野において大きな活躍とご貢献をされておられることは大変心強く、同窓生の一人として大いなる誇りを感じております。

私も、昨年十一月の市長選挙で多くの方々からご支持をいただき、三たび市政の重責を担わせていただくこととなりました。

来るべき二十一世紀に向け、郷土新潟のさらなる発展のため一層の努力をしてみたい、とその決意を新たにしております。

新潟空港の新ターミナルビル完成や滑走路の二千五百メートル化に従い、従来のソウルやロシア極東向けに加え、昨年は

世界に向けて発信する芸術文化創造の場となることを大いに期待しております。

これからも、福祉・環境・文化などの施策の充実に努め、自然環境との調和の中で、魅力と活力に満ちた、そしてこのまちに暮らすことが誇りに思えるまちづくりに努めてまいりたいと考えております。

ハワイやグアム、上海・西安、ハルビンなどとの国際航空路が開設されるなど、新潟の空の窓口が世界に向け大きく開かれた年でした。

また、十月には、新潟の芸術文化の新たな拠点施設として、高い水準の設備内容を備えた「新潟市民芸術文化会館」が開館しました。世界の芸術文化との交流の場、さらには新潟から

# 新春のご挨拶

青山同窓会・総会実行委員長

73回 小崎弘一

新年明けましておめでとうございます。昨年は苦しい年だっただけに、新年を迎えることができた喜びはひとしおです。

卒業して三四年経ちましたが、その間母校のためにほとんど何もお手伝いしませんでした。73

期の幹事としても働きが悪く、総会出席の連絡もさっぱり、といった具合で同期の皆さんにもご迷惑を掛けてきました。その

報いというか、罰というか、なんと昨年度より実行委員長を仰せつかりました。もとより非力

でありましたので副委員長に75回の富山修一さん、82回の小林しほりさんという実力者をお願いし、初めての総会に臨みました。

例年通り、同窓会役員の皆様、各期幹事の皆様、先生方、そして会員の皆様方のご協力で大勢のご出席をいただくことができました。ジャンケンによる『二次

次会費用援助』出席者の多い期に『越の寒梅贈呈』とアトラク

ションを付け加えましたが、なかなか好評だったようです。途中でお帰りになる方がほとんど

# 平成十年年度

# 青山同窓会総会

一九九八年七月十七日(金)例年と同じ、ホテル新潟を会場に開催。

会長挨拶、校長挨拶、議事、会務報告、決算、予算、と順調

に進行。母校百十周年記念事業について、現在までの状況を会長より説明。今後実行委員会を同窓会、学校、PTAと組織すること。そこで具体的な事業計画を相談するが、新校舎建設竣工が、平成十三年秋なので、平成十四年の百十周年の記念事業を校舎竣工式に合わせて、学校の希望も考えたい、についてはこれから会員に募金をお願いすることになるが、と提案があり、

おられず、閉会の応援歌を全員で高らかに歌い、お開きとなりました。

総会の開催における事務局の方々のご苦勞は大変なものがあります。こちらはただ乗っかっているだけで、申し訳ないとお詫びするとともに、ここから

お礼申し上げます。

今年度の総会にも会員の皆様方、お元気で出ましてくださいませ

ようお願いします。

一同拍手で賛成。総会は終了。引き続き、今年からは73回小崎弘一総会実行委員長の元での懇親会が開催されました。司会は副実行委員長小林しほりさん82

回、会長挨拶、東京青山同窓会からのご来賓の挨拶、61回長谷川義明新潟市長の挨拶、校歌斉唱、そして乾杯のご発声は顧問鈴木正二さん37回。

今年には例年の綺麗どころの踊りがなくなり、代わって各期代表ジャンケンゲームによる二次会費用金一封の争奪戦や、

ごあいさつ

# ごあいさつ

東京青山同窓会会長

59回 栗林貞一

今回、斉藤伸雄会長の後を受け、十一月十三日の総会で、東京青山同窓会の会長に選任されました。どうぞよろしくお願ひします。

私が旧制の県立新潟中学校に入学したのが昭和二十年で終戦



平成10年度 青山同窓会総会・懇親会

前売り券の売上多数の学年へ「越の寒梅」の贈呈など、新しい試みがなされました。毎年顔を合わせる楽しい仲間たちはいつまでも歓談尽きず、時間一杯まで、席を暖めていました。

の年でした。戦後の教育制度の改革の中、同じ校舎に六年いて、出たときには新制の新潟高校の卒業となっていました。そんな激動の世の中の青春でした。さて、今後の会の運営については、まず会員相互の親睦を第一の目標したいと思います。その中からお互いが助け合い、協力し合って、それぞれが発展

## 関西同窓会設立万才!!

青山同窓会幹事 55回 早福 卓

平成二年頃、母校創立百周年記念実行委員会準備会の打合せのときに、東京同窓会に続いて関西同窓会を設立しようと検討したけれど実現しなかった。それが昨年来、母校の英語担任を二

七年間もした上杉雅之先生(60回生)と同志社大学卒業の石田瑞穂(67回生)幹事長との共同作戦で大阪・京都・神戸等に住む上杉先生の教え子と石田幹事長の同級生を中心にして働きかけをした結果今年十一月に関西同窓会の結成に成功したのです。御両人の御苦労と協力して頑張った戴いた後輩諸子の幹事に心から感謝致します。当日、明石市から御参加下された47回相撲部OBの浮田大先輩は、この年令

回を通じた縦糸を強くして横糸により合わせ、一層堅固な縦横ネットをつくり、同窓会ならはの真価を発揮できるようにしていきたいものだと思います。新潟本部とも連絡をとりつつ、青山同窓会と母校の発展のために微力を尽して参りたいと考えております。

達と過ぎた青春時代を想い出し乍ら飲み、歌い、語り合う「場」を創って戴いて有難うと大感激をしておられました。故郷を遠く離れて生活をしてきた同窓の各位の想いは皆同じです。それだけに関西同窓会が誕生した事は共通の集いの場となります。感激こそが人生最高の喜びです。幹事になって呉れた皆さん、来年はもっと輪が広がるよう頑張ってください。



関西青山同窓会



左側 松本和彦氏

**関西青山同窓会会長に 佐藤幸治氏**

二年目を迎えた青山同窓会関西懇親会も盛況に、和やかに終わりに近付いた所で、今後この会をより立てて続けて行くため

にもぜひ会長をどなたかにお願ひしようという声が高まり、64回佐藤幸治氏にお願い致しました。突然のお願いで戸惑っておられた佐藤氏でしたが、満場われんばかりの賛同の拍手で、快くお引き受けいただきました。現在京都大学の法学部教授として、また昨年は政府の行革の委員などとして大変お忙しい先生ですので、細かい事務方の事については、事務局長として83回松本和彦氏にお願い致します



佐藤幸治氏

た。83回の同期の諸君も松本さんの手伝いをしてくださるといふ事です。これから関西青山同窓会として、毎年一度会合を開き、懇親の機会を深めて行こうと参加者一同の賛同の元に関西青山同窓会は発足し、お開きとなりました。昨年初めて開催するに当たり、いろいろご協力いただいた関西在住同窓諸君の暖かい心遣いに感謝し、来年以降の更なる発展が期待される事に安堵して、二次会へと向かったものでした。

## ソフィアから新潟へ

駐ブルガリア大使 67回 松井 啓



はもっぱら代返(授業に出席せずに友達に出欠の点呼の返事を代わってもらうダマン)でのいだったので、英語はまるきりだめだった。それなのに当時60倍の競争率といわれていた外務省の試験を受けて見ようという気になったのは、次に述べるような高校時代の担任の先生の影響があったのではないかと今になって思い返している。

一九五九年県立新潟高校を卒業した。一九六五年に外務省に入ったが、一橋大学在学中は始めから外務省に入ろうと思っていただけではなく、最初の二年間をスポーツ(グラウンドホッケー)やその他の趣味に時間を費やし、全く勉強せずに過ごしてしまつた反省から、三年生の春のリーグ戦で怪我をして試合から離れたのをきっかけに、何か目に見える成果が現れるものに挑戦してみようと外交官試験を受ける決心をした。地方の高校の出身で、しかも大学前期二年間の外国語の授業

高校の担任の先生は池政栄という方で、世界史を情熱を込めて語って下さった。当時食糧事情がまだ余り良くなかつたにも拘わらず、先生は我々生徒を何度か自宅に招いて、カレーライスを振る舞って下さった。ご自宅は皆で松林の丘を歩いた記憶があるので、海岸に近い所にあつたように思う。先生は清貧に甘んじるタイプであつたようで、我々は狭い畳敷きの部屋に重な

り合うようにして座り、カレーライスを負り食べた。どんな話をされたのかは全く覚えていないが、若干偉くなったような満腹感で心地よく三々五々帰ったものであった。

その先生が世界史の授業で、何時の時代についての話だったか記憶にないが、国と国との戦争や平和にはその裏でもすごい駆け引きがあり、傑出した人物が歴史に名を残している。現代では外交官とよばれる人々がそのような交渉に当たっているというようなことを話された。当時私は非常に内気な無口な少年だったが、この話に興味をかき立てられ意を決して立ち上がった。質問した。外交官とはどのような人達なのか、どうしたらそういう人になれるのかと。それに対し池先生は、君、それには外務省という所に入らなければならぬが、大変に難しい国家試験があつて、死ぬほど勉強してもとても受かるものではない、まあ新潟高校からでは無理ではないかと、苦笑しながら答えられたので、クラス一同笑いとなつて、私自身は何とも大それたことを聞いてしまったものだと思へ入って、いつもの気弱な松井になつてそつと座り、その後このことはすっかり忘れてしまった。

新潟高校は在学中に木造のぼろ校舎から鉄筋の「高層ビル」になり、校舎内下駄履き禁止となり、池先生の授業はもう新校舎に移つてからであつたように記憶する。当時新潟港は、韓国からの帰還者の中継地点であり、またロシア人が船から歩いて本町市場まで行き、十個が棒状に包装してある安い石鹼など日常生活用品をしこたま買い込んで帰るのを時々見かけたりした。こういう光景は社会主義体制の成功により勤労者が豊かな生活を楽しんでいるという当時喧伝されていたソ連のイメージにはそぐわないものであつた。

外務省に入つてからは、当時流行であつた米英独仏ではなく日本の隣国である大ロシアを是非見てみたいと思ひ、研修はロシア話を選んだ。希望がかなえられてイギリスで二年、ロシアで一年の合計三年間を研修生として楽しく過ごし、その後モスクワの大使館で三等書記官として二年あまりの勤務をした。

今までの外国勤務を数え上げれば、二回目はフィリピン、国連代表部(ニューヨーク)、三回目(ニューゴースラヴィア(崩壊前)、インドと続き、イタリアで勤務中にソ連が崩壊し、中央アジアに新しく独立したカザフスタンに日本の大使館を開いた

ので、急遽その初代大使に任命され、首都アルマトイ(当時)で三年余りを過ごした。その後国会図書館の外交防衛担当の専門調査員を二年間やつて一九九八年九月からブルガリアの大使として首都ソフィアに赴任している。

超大国として恐れられていたソ連が崩壊して十年が経つた。西ヨーロッパはEUとして統合されつつあり、本年一月からはユーロという共通通貨システムが創設され、それが更にかつての東ヨーロッパにまで拡大の方向にある。かつてソ連に対抗するために創設されたNATOはその役割を変質させつつある。アジアでもアセアンが拡大され安定化の方向にある。このように二十一世紀を目前にして国際政治経済関係全体が本質的に激変しつつある。何時までも日本が今のままの状態であるわけにはいかない。我々一人一人が世界の動きに関心を持ち、日本をどんな国にしたいのか、日本を取り囲むアメリカ、中国、ロシアという三大国とどうつきあつて行くべきなのか、そもそも我々日本人とはどういう人間であるべきなのかを真剣に考えることが必要である。自分の国の歴史や文化を良く知らず、それを誇りに思えないような国民は世界

の歴史の中で長続きはしなかつた。ましてや、自分の国は自分で守る気概のない国民で満たされていく国は、尊敬もされず、恐れられもせず、国際社会ではないがしろに(無視)されてしまふ。

ヨーロッパは狭く色々歴史のなつたりもあり、旅行が自由になつてきているので数カ国語を話すのはごく当たり前のこととなつてきている。アジアでの国際会議などでも公式な場以外のレセプションや食事などで通訳なしで自由に意志の疎通をしている。東南アジア、インド、パキスタン、中近東などでもCNNやBBCなどの国際衛星テレビ放送でその日その日の世界の動きを普通の人々が見ている。インターネット、電子メールが飛び交ひ、国際情報交換網の拡大と緊密化が劇的に加速している。こういう状態を目にするにつけ、我々日本人も少なくとも英語くらいは聞いたり、少しは読み書きできるようにならないと、世界的な交流の渦から取り残され、極東の端に忘れ去られてしまふような危機感に襲われていく。

若者よ、日本の将来、二十一世紀をになうのはあなた達なのだ。頑張つて欲しい。

○山岳部OB会(会長石田瑞穂 昭和三四卒)の有志が雨飾山の登山をした。同OB会はここ数年、毎年春か秋に、有志十名内外が一緒に山登りに出かけているが、今年は新潟、長野県境の雨飾山。

### 山岳部OB有志 雨飾山(あまかざりやま)に合同登山

の、ほとんど親睦のみの集まりで、昔年の山男、山女たちも近頃は集まれば飲んで話をするだけだった。

一緒の山登りを再開するきっかけは、OB・現役の交流登山。山岳部OB会は平成五年、創部四十周年を記念し記念誌「ふくろう」を発行したが、その作業のなかで現顧問の藤田善思先生が現役との交流会を提案される。そして翌六年九月、現役の「三年生追い出し登山」に便乗して、巻機山(塩沢町)山麓にOBが集まり、翌日、自分の子供のような現役に遅れながらも山に登つたのだつた。

二日酔いに加え、腹の出た体にはきつい山登りだった。

しかし、これが胸底に眠っていた山心に火を点じた。以来、何人かのOBが山登りを再開し、そして毎年一、二回、新潟と東京方面と連絡を取り合つて山行をとにもするようになったのである。



○往年の山男、山女たちも学校を卒業すると、それぞれの職業や家庭、その他さまざまな社会的しがらみに忙殺され、いつしか山から足が遠のく。登っている者はごく一部、それらもばらばらに、山岳部OB会とはいっても

これまで平標山(湯沢町)、荒沢岳(湯之谷村)、金城山(六日町)、谷川連峰(湯沢町)、苗場山(栄村)。いずれも温泉

つきのやや軽い山登りながら、参加のOBは山そのもの、そして仲間とともに登る魅力に再びとりつかれていった。

○さて、その雨飾山。

糸魚川から姫川を遡り、北アルプス連峰の北端である雪倉・朝日や白馬岳と相對峙するあたり、妙高・火打に連なって峰を並べる双耳峰がそれである。二千メートルにも満たない山奥の山ながら深田久弥の日本百名山に教えられてきた。「雨飾」(あまかざり)の名は、人に謎めいたロマンを覚えさせる。

当初予定した十月中旬が台風のため延期となったため、参加者は減って六名。山岳部顧問だった片岡久先生(昭三八〜四七在



任)、四一年卒の玉野正樹、塚野憲一、馬場泰の三人組、若手から奥村基(五二年卒)、そして塚野婦人。

初日の夕方、小谷温泉で合流し、さっそく露天風呂で汗を流す。

風呂はぶな林のなか紅葉に囲まれ、ビール片手に熱い湯に入る。

夕食は名物のそばに舌鼓打ちながらの飲酒歓談。銚子が運ばれるそばから空になる。

翌朝、日の出を前に宿をたつ。紅葉と落葉に明るい林の山腹をたどり、やがて荒々しい鏡のような岩壁・布団の下にでて屋根に取りつく。稜線の木々はすでに葉を落として、梢が秋空にけぶるよう

に延びている。夏、繁茂して人が踏み入るのを拒絶した下草は枯れ果て、山肌は身近い。この季節、山はほんとに人にやさしいのだ。

山頂では雲間に北アルプスの峰々を望みし、少し下って笹原のわきで食事。思いおもいに湯を沸かして食事を作り、交換して食べる。片岡先生のいつもの、きのこ汁に歓声があがる。暖かい食事に体も暖まり、みんなの

### 東京青山同窓会 総会初参加の記

#### 82回 小林しほり

恒例の東京青山同窓会総会、前々から勧誘を受けていたが、今回、初めての参加となりました。

十一月十三日金曜日、九段のホテルグランドパレスに約百六十名の同窓生が集まり、和やかに開催されました。ご来賓として坂井政行新潟高校教頭、青山同窓会から厚地武副会長、石田瑞穂幹事長、山田栄校内幹事、事務局の三浦弘子氏、そしてこの前週、三選を果たしたばかりの長谷川義明新潟市長も出席されました。

第一部の総会は日下部朋子さん(82回)の司会で阿尻副会長が弾む。 やがて下山、往路をたどる。そしてビールで喉を潤し、露天風呂の熱い湯にゆっくり疲労をほぐす。 こうして、小春日和の一日も暮れようとするころ、参加者は夕陽と紅葉とに染めあげられて帰途についた。 次回は来年、新緑の季節となる予定である。(文・馬場泰、写真・奥村基)

後、第二部の懇談会に入りました。89回学年幹事、倉田祐一さんの司会で、小野塚副幹事長による開会の辞、田中一郎43回学年幹事の乾杯につづき、アトラクションとして高城英雄60回学年幹事を交えた。『ゆーかり』の皆さんの素晴らしいハーモニーに聞き入りました。そしていよいよ懇親会のプログラム中、最高に盛り上がる『じゃんけんゲーム』。82回・西山活子さんの聞きしに勝るパワフルな進行で、この時だけは先輩・後輩の別なく、全員が百円玉を握りしめて勝負に挑みます。栄えある賞金一万五千円を手にしたのは現役の青山学院生、藤田武彦さん(105回)でした。厳しい就職戦線でも今日の覇気を忘れず頑張ってほしいと切に思います。

### 深悼 元校長高柳頭之先生



旧職員 志田 耕吉

高柳先生が、第二十四代の新潟高校長として着任されたのは、昭和四十八年四月であった。当時学校は、学園紛争の余波とも

懇親会の最後はやはり恒例の応援歌と万歳三唱、佐藤邦雄事務局長の閉会の辞で締めくくり。富所強哉学年幹事(46回)の歌声に送られて、久々に再開した友と二次会場へと向かいました。今回、恐る恐る初めて出席した私でしたが、同窓会は暖かく迎えてくれました。故郷を後にしてきた想いは皆同じ。それが新潟での青山同窓会とは一味違う雰囲気になっているかも知れません。現役の学生を始め、若い期(私よりも年下)が数多く参加していること、女性たち(特に82回!)の活躍が目覚ましいこと、アトラクションの内容が多彩なこと。今後の同窓会活動の参考にした、たくさんのおみやげをいただいきました。

いづべき裁判問題を抱え、被告の立場にあった。従って、教職員の間には裁判の成り行きに対する、幾らかの不安が漂っていたことは否めない。しかし、新校長は常に泰然として動じられる様子もなく、教職員の心の支えとして、優れた指導力を発揮された。

また、公判の折には、学校を代表して先生が法廷の被告席に着かれねばならなかった。たまたま傍聴席から、一部過激分子の学校に対する弥次が飛び出しても、先生は平然として聞き流し、全く意に介される様子もなかった。やがて、新潟地裁の判決が下され、学校側の全面勝訴となった時、「よかったね。」と一言いって、ニコッとされただけであった。

ご在職はわずか二年であったが、朴実にして悠揚迫らず、芯の太いまさに大人の風格を具え

## 樋口 均君を悼む

三六会 金井 宣夫



わが青山三六会幹事長樋口均君が去る十一月二十二日数年間の斗病の末、遂に亡くなってしまった。八十七才、残念至極である。(ちなみに、わが三六会には故君元県知事があり、中央には斎藤英四郎君など大物がいるが、ついに会長は置かず樋口君がその職を果してきた。)

彼は、わが三六会ばかりでな

られた、真に頼り甲斐のある校長先生という印象を残された。

ある正月、校長室に小さな梅の盆栽を置かれたことがあった。花数の少なさを言った者に、桜と比較しながら梅の花の見方を語られた。その美的感覚の豊かさは、聞く者を納得させるに十分であった。

今、ご長逝の報に接して、おらかにしてこまやかな、ご生前のお人がらを偲びつつ、懐旧の情と哀悼の念を禁じえない。謹んでご冥福を祈る次第である。

く青山同窓会にとっても大事な連絡役を何十年もひとりで引き受けて来た。

年毎の同期会では、企業案内から、みんなの返事の内容をガリ版印刷で全員に配布するなど一切を、たゞ黙々と、しかも常にニコニコとひたすら同期に奉仕して来た。

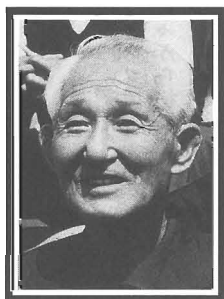
彼は、同期の動静把握にも執念を燃やしており、所用で旅行すれば必ず直接訪問か電話で確認していた。変りがあれば直ちに青山同窓会に通知するなど、彼の細やかな心配りには敬服す

るのみである。

彼は、昭和五年師範卒業後しばらく小学校に勤め、昭和二十六年に県教育庁保健課主事に抜擢され、ついで県立新潟養護学校長に栄転して停年までの十年間勤めた。さらに退職後は、県・市の肢体不自由児者父母の会々々をはじめ、みずほ園副園長や新潟もぐらの会理事長など

## 皆川登良夫さんを偲んで

39回 小林 芳輔



専ら養護活動に献身した。彼の天性の資質であろう。同期会への奉仕もそこに因縁があるように感じられてならない。

三六会は昨年は新潟市近辺の会員のみに案内して懇親会に十名の参加を得た。来年もこの声もあつたが、樋口君永遠の欠席には感無量である。改めてご冥福を祈らずにはおられない。

寅さん、よっちゃんとお互に呼びあつてた旧制新潟中学以来の畏友の死は余りにも悲しく想はつきません。

卒業後彼は優秀なプレイヤーとして仙鉄局野球部に招かれ、当時の全国都市対抗野球大会等で活躍したのは御存知の通りです。中学生時代を振り返りますとお互四年生の時、シーズン後彼から内野手が来年足りないから手伝ってくれないかと云われ入部してマネージャー位ならやるかななど軽い気持ちでした。当時新津から通学しておりました

学生となり彼は社会人として暫く疎遠となりましたが此の間の彼の活躍は皆様よく御存知の事と思われず。終戦後東京を引揚げた小生が国鉄(現在JR)に入社、秋田市土橋国鉄工機部診療所に奉職し、おこがましくも工機部硬式野球部監督として在任中に新鉄野球部選手兼監督をつとめる皆川君と秋田土崎のグラウンドで親善野球の折の再会となりました。其後小生が新潟鉄道病院に勤務中彼が庶務課長として在任し両者退職後も同期の気の合った新中出七、八名と年に三、四回会合し大いに親交を暖めたものでした。昔に戻

## 東京青山六三回総会報告

63回 相墨 直彦

平成十年十一月二九日(日曜)十二時三十分〜十六時、新宿住友ビル47F東京住友クラブでの東京青山63回は四十名出席予定のうち当日欠席二名となりましたが、盛大裡に終わりました。新潟及び母校の近況をお聞きしようとして青山同窓会前幹事長赤羽良樹君をお招きいたしました。

また大阪の油本暢勇、神戸の三宅桂子、金沢の二階堂修の皆さん遠いところの参加で会を盛り上げていただき、感謝いたします

りますが彼には敵と云ったものが生涯おらなかったのではないのでしょうか。温厚な人柄と当時では大柄な体形で中学の野球部内では「大佛」などと紳名され下級生にも慕われており、又運動神経の素晴らしさは時折陸上部の大会に選手として活躍されたほどでした。人生会うは別れの始めと申しますが彼が逝った後想い起すのは懐かしい楽しい(特に飲んだ時など)懐古の情がいつ迄も忘れられません。いくら書いても書き足らぬ思いですが此の辺で筆を擱きます。安らかに眠って下さい。

ております。さらに六三会のマドンナ小原和子、三宅桂子、森実秀子の出席ありがとう。これからも多くのマドンナの出席をお願いしていきます。世話人相墨の挨拶があり、峰松の進行役で、赤羽の乾杯の音頭、名簿の順に当時のクラス、担任先生、氏名と手短かの自己紹介では当時のクラス等を失念する者が続出し、東京の会合としては約三十年ぶり、一部の者は高校卒業以来四十数年ぶりと一気に還暦



相墨直彦、高木章介、津久井保、中村道衛、永松良久、二階堂修、長谷川潤治、長谷川正勝、林 護、泉均、彦坂道途、平野恒夫、藤塚捨雄、牧壮、皆川 守、峰松忠浩、三宅(長谷川)桂子、森実(田村)秀子、八木 肇、山田益也(恒郎)、油本暢勇、吉田文三、吉田昌生、若穂田広志、渡辺 昇

を過ぎた顔をみることになったのです。座敷には十名一組のテーブルが四つおかれ、テッサ(フグ刺し)フグチリ鍋、ヒレ酒、最後に雑炊とフグのフルコースであったが、何ととっても赤羽の持込んでくれた新潟の地酒二本の冷酒が旨い、おいしいと好評だった。アルコールがまわるにつれ、青春時代に突入し、時をわすれて飲み、且つ語り合った。白髪まじりの頭でも高校時代に戻ったようである。終り近くになって集合写真の撮影のときが来た。運の悪いことに読売新聞社写真部の稲村健君が欠席なので、相墨と峰松がカメラを持

参したが、腕は悪いが、カメラは優秀なので何とかカバーできました。最後に平野恒夫君の本気で、アツという間の楽しい三時間半を過ごしました。名残り惜しいのか、その後、住友クラブのラウンジで47階からの新宿の夜景をながめながらハイボール、ビール、コーヒート有志六名がとぐろをまいて一時間半ほど歓談しお開きとなりました。〈出席者〉赤羽良樹(御招待)、浅野康一、阿部隆二、五十嵐健治、入山章男、小原(五十嵐)和子、柏 正平、鹿取芳郎、工藤正彦、桑山浩然、清水修、白倉 至、関 守二、

# 65期還暦同期会

人生の節目となる還暦を迎えて同期会を開こうという話がようやく具体的にになり、十月三日(土)と十一月一日(日)、一泊二日の日程で越後湯沢の「ホテル双葉」で開かれました。今年の秋は気温が高かったせいかいつもの年より紅葉が少し遅くなり、今ひとつ美しさが足りない感じがりましたが、当日は良い天気にも恵まれてとても爽やかな気分になりました。昭和三十二年に高校を卒業してから30周年、35周年、40周年と、5年毎に我が65期の同窓会を開いてきました。今回は卒業生三十一人の中四十八人が出席、思い出話や卒業後の話等に花が咲きました。仕事の関係や家庭の事情などでお忙しい恩師の中で、C組担任の大橋禎助先生に出席していただくことができました。相も変わらぬ大橋先生の元気な姿に65期の面々も圧倒された形でした。還暦を迎えて定年になる者、もう少し先まで仕事を続ける者達が集まって交わす話は年金や健康のことばかり。去年開いた40周年の



青山65期還暦同期会様

同期会の時はもっと仕事や子どもたちに関する話が多かったような気がするのにな、やっぱり年のせいなのかなあとと思った次第です。なお、三十一日に地元湯沢パークゴルフで行われた還暦同期会メンバー一五人が参加しました。ここをホームコースにしている埼玉県で病院勤務の清水正夫氏が優勝し65期のアルバムに名譽の記録を残すことになりました。次回は四年後の卒業45周年に再会を誓ってめでたくお開きとなりました。(大橋修一 記)

**第6回青山OB会ゴルフコンペ**  
来年は  
**4月25日(日)です**  
75回 勝又 宣夫

**77回生(昭和44年3月卒)**  
**30年振りの同期会のご案内**  
期日：平成11年5月15日(土) 午後6時より  
場所：イタリア軒サンマルコ  
会費：12,000円  
同日午後3時より、母校新校舎視聴覚教室にて、恩師による模擬授業を計画しています。奮ってご参加ください。  
同期会幹事代表 小林 悟  
同幹事 味方利博 木村廉平  
栗山和広 齋藤繁夫  
瀬賀孝子 関根伸春  
瀬野正英 田辺重幸  
長谷川次郎 日野浦葉子  
第六回の青山OB会ゴルフコンペが、十月二十九日好天の中、紫雲ゴルフ倶楽部・加治川コースで行なわれました。年二回のこのコンペ。一回は平日でということで、木曜日でした。そのためか参加者は二〇名。スタート前に「俺にもチャンスがあるかな」と思った人も多かったようだ。  
林さん、森さん、池さん、砂場さんと格闘の結果、栄えある(一六一)

優勝は75回生堀一氏が獲得した。しかもベスグロ。ベスグロが80代じゃないなんて、いかにヘタクソの集まりなのか、それだけコースが難しかったのか。判断は諸兄におまかせしよう。  
夜「安兵衛・古町店」での表彰式は若手の85回生も出席とあって、盛り上がりました。席上、来年の話がひとしきり。四月二十五日(日)新津カントリークラブと決定しました。諸先輩が、「俺の期は十名集める」と豪気な話も出て、各期対抗戦もやろうということになりました。卒業生の皆さん。是非、同期をさそってご参加下さい。一人なら気がひけても、三人四人ならどうってことないですよ。先輩にゴロニャンと甘えましよう。上村会長、腰を治して下さいね。事務局は75回生の富山氏です。(〇二五―二二三―一

# 76期卒30周年行事

76期 齋藤 栄路



思い起こせば三十年前、西瓜畑の丘の上に国道116号線を建設中で、小針温泉が有りまして。まだ関屋分水なんて考えもしていませんでした。映画はパートカラー、テレビはテストパターン

の時代です。団塊の世代で教室が足りなく玄関改造教室や移動教室で中高と来たのです。大学定員が足りない上、前年の団塊の浪人組と現役とが重なって未曾有の受験地獄の様相を呈しました。そんな世代ですから、高校時代を振り返って「楽しい事は部活以外無かった」「思い出したくない」「ほとんど記憶に無い」といった声を多く聞きました。

と渡辺秀英先生の書の贈呈、八月十四日同期会に決定。東京同期会も六月に独自で会を開催する事になり六月東京、八月新潟と二段での豪華同期会です。女性編集長を迎え、原稿印刷製本の雑用係を決め、全員への通知、原稿依頼と校正、編集会議と雑務の山をこなしていきました。逝去者十二名の御遺族への原稿依頼も有り、汗と涙と知恵の結晶として二百頁の記念誌が出来上がりました。会費三千円の送金者二百名に郵送しました。印刷は予算都合上パソコンプリンターで全頁打出しですので、

印字と頁揃えに膨大な手間が掛かり、製本では左右逆に綴じしてしまったりで手作りの大変さを認識しました。名簿は学年幹事が毎年整理していたので、最小の手間で出来上がりました。又、東京の参加者全員の写真と自己紹介を載せた写真集？らしき冊子を佐野君が印刷所に依頼して作成しましたので添付しました。

## 海上自衛官として

83回 山作 房彦

私は昭和五十年に新潟高校を卒業し、防衛大学校に第二十三期生として入校しました。防大卒業後、海上自衛官となり、現在、防衛庁海上幕僚監部人事計画課において人事制度に関する業務を担当しています。海上自衛隊における私の専門職種は、哨戒機P13Cのパイロットです。そもそも、私の防大受験の動機がパイロットになりたいというものでした。防大の同期生約五百名のうち新潟県出身者は私を含めわずかに三名ですが、これは県内に自衛隊の基地が少なく防大が余り知られていないためかと思えます。

防大は、陸海空自衛隊の幹部自衛官となるべき者を四年間、教育訓練する防衛庁の機関で、教育内容は大学設置基準に準拠しているものの文部省所管ではないため「大学」ではなく「大

手間では出来上がりました。又、東京の参加者全員の写真と自己紹介を載せた写真集？らしき冊子を佐野君が印刷所に依頼して作成しましたので添付しました。

り、学生舎(寮)に居住し、衣食住や学費は無料で、給料(現在、月額約十一万円)をもらい教育訓練を受けます。今にして思えば、親孝行をしたものです。なお、平成四年からは女性にも門戸が開かれ、既に卒業生が各自衛隊において活躍しています。防大四年間で最も印象に残っていることは、学生舎生活と交友会(クラブ)活動です。同じ釜の飯を食べた仲間の関係は卒業後、別々の自衛隊・部隊に分かれた後も続きます。

私は昭和五十年に新潟高校を卒業し、防衛大学校に第二十三期生として入校しました。防大卒業後、海上自衛官となり、現在、防衛庁海上幕僚監部人事計画課において人事制度に関する業務を担当しています。海上自衛隊における私の専門職種は、哨戒機P13Cのパイロットです。そもそも、私の防大受験の動機がパイロットになりたいというものでした。防大の同期生約五百名のうち新潟県出身者は私を含めわずかに三名ですが、これは県内に自衛隊の基地が少なく防大が余り知られていないためかと思えます。

防大は、陸海空自衛隊の幹部自衛官となるべき者を四年間、教育訓練する防衛庁の機関で、教育内容は大学設置基準に準拠しているものの文部省所管ではないため「大学」ではなく「大

り、学生舎(寮)に居住し、衣食住や学費は無料で、給料(現在、月額約十一万円)をもらい教育訓練を受けます。今にして思えば、親孝行をしたものです。なお、平成四年からは女性にも門戸が開かれ、既に卒業生が各自衛隊において活躍しています。防大四年間で最も印象に残っていることは、学生舎生活と交友会(クラブ)活動です。同じ釜の飯を食べた仲間の関係は卒業後、別々の自衛隊・部隊に分かれた後も続きます。

私は昭和五十年に新潟高校を卒業し、防衛大学校に第二十三期生として入校しました。防大卒業後、海上自衛官となり、現在、防衛庁海上幕僚監部人事計画課において人事制度に関する業務を担当しています。海上自衛隊における私の専門職種は、哨戒機P13Cのパイロットです。そもそも、私の防大受験の動機がパイロットになりたいというものでした。防大の同期生約五百名のうち新潟県出身者は私を含めわずかに三名ですが、これは県内に自衛隊の基地が少なく防大が余り知られていないためかと思えます。



平成四年に第四航空隊(青森県八戸基地)勤務となったときは飛行機が新しいP13Cに交代しており、まず単身厚木基地での機種転換訓練から始まりました。平成五年七月の北海道南西沖地震では奥尻島が津波で大きな被害を受け、八戸基地のP13Cは連日、災害派遣で行方不明者の捜索にあたりました。潜水艦や艦艇を捜索するP13Cも、このときは低速・低高度で飛行しクルーの目視に頼る捜索を行いました。私が飛行した際は、津波で流された家屋や漁船等の残骸が多数漂う奥尻島沖約百五十kmの日本海において、クルーの一人がほんの一瞬捕らえた目標を再調査して遺体であ

記念行事では、富士登山、百里流れて信濃川カヌー、弥彦往復リレマラソン等々色々考えたのですが体力的に無理との声が多く止まりました。それではとジョリーチャップスのセントルイスブルースの演奏と紙テープの代わりにトイレットペーパー投げの再演をやらせと元メンバーに打診したのですが、恥を知らない六十歳での予定となりました。結局、記念誌と名簿の発行

と渡辺秀英先生の書の贈呈、八月十四日同期会に決定。東京同期会も六月に独自で会を開催する事になり六月東京、八月新潟と二段での豪華同期会です。女性編集長を迎え、原稿印刷製本の雑用係を決め、全員への通知、原稿依頼と校正、編集会議と雑務の山をこなしていきました。逝去者十二名の御遺族への原稿依頼も有り、汗と涙と知恵の結晶として二百頁の記念誌が出来上がりました。会費三千円の送金者二百名に郵送しました。印刷は予算都合上パソコンプリンターで全頁打出しですので、

防大は、陸海空自衛隊の幹部自衛官となるべき者を四年間、教育訓練する防衛庁の機関で、教育内容は大学設置基準に準拠しているものの文部省所管ではないため「大学」ではなく「大

り、学生舎(寮)に居住し、衣食住や学費は無料で、給料(現在、月額約十一万円)をもらい教育訓練を受けます。今にして思えば、親孝行をしたものです。なお、平成四年からは女性にも門戸が開かれ、既に卒業生が各自衛隊において活躍しています。防大四年間で最も印象に残っていることは、学生舎生活と交友会(クラブ)活動です。同じ釜の飯を食べた仲間の関係は卒業後、別々の自衛隊・部隊に分かれた後も続きます。

私は昭和五十年に新潟高校を卒業し、防衛大学校に第二十三期生として入校しました。防大卒業後、海上自衛官となり、現在、防衛庁海上幕僚監部人事計画課において人事制度に関する業務を担当しています。海上自衛隊における私の専門職種は、哨戒機P13Cのパイロットです。そもそも、私の防大受験の動機がパイロットになりたいというものでした。防大の同期生約五百名のうち新潟県出身者は私を含めわずかに三名ですが、これは県内に自衛隊の基地が少なく防大が余り知られていないためかと思えます。

私は昭和五十年に新潟高校を卒業し、防衛大学校に第二十三期生として入校しました。防大卒業後、海上自衛官となり、現在、防衛庁海上幕僚監部人事計画課において人事制度に関する業務を担当しています。海上自衛隊における私の専門職種は、哨戒機P13Cのパイロットです。そもそも、私の防大受験の動機がパイロットになりたいというものでした。防大の同期生約五百名のうち新潟県出身者は私を含めわずかに三名ですが、これは県内に自衛隊の基地が少なく防大が余り知られていないためかと思えます。



ることを確認し海上保安庁に引き継いで収容してもらいました。生存者は発見できませんでした。が、家族の元に遺体を返して差し上げられたことがせめてもの慰めでした。

平成六年から、海上自衛隊唯一の実験航空隊である第五十一航空隊(神奈川県厚木基地)で研究開発の学生一年及び勤務二年を経て現在の勤務に至っています。

# 八十五期同期会

八月六日、卒業二十一年目の同期会が、新潟会館で開催された。懇親会に先立ち、今年限りで姿を消す北校舎(卒業時の三年の教室は、一〜八組まで北校舎の二、三階、九、十組は、すでに壊された中校舎三階であった。)で、数学の野坂先生、日本史の三浦先生に記念授業を行って戴き、二十数名程が参加。図形問題に頭をひねり、名調子に聞きほれた。場所を移した懇親会では、同期生六十九名に、旧担任・副任、授業に出席いただいた先生方、十五名御参加戴き、盛会であった。



私は防大を除く約二十年の自衛隊勤務の間にパイロット、ソフトウェアプログラマー、幕僚、研究開発及び人事と様々な仕事を経験してきましたが、その三分の約七年間は学生として教育訓練を受ける身分でした。パイロットを目指して入隊した私でしたが、各種教育訓練及び業務を通じ自衛官として、人として育ててもらったと思っています。

最後は、当時の応援団長・副団長が登壇、丈夫の大合唱で締めくくられた。

九月十二、十三日毎年恒例の新潟高校山岳部のOB会登山兼三年生追い出し山行が一泊二日で行なわれた。入山先は、毎年巻機山(塩沢町)ということに決まっています、僕たち(三年生)にとっても思い出深い山である。

## 山岳部OB会登山に 参加して

今年も幸運にも天候に恵まれて、OBの方々の多数の参加を頂き、また昨年、高田北城高校へ転勤された加藤徹男先生にも御越し頂いた。加藤先生には現役時代に、山の知識、技術など多くのことを教えて頂き、とても感謝している。

初日の夜は、OBの方々から現役時代の山のお話やアドバイスを頂き感銘を受けた。

二日目、尾根コースを登り、天狗岩などの景色は絶景だった。OBの方々も数人登って自然を満喫されていたようだった。

いよいよ今年は僕達三年生が追い出される番となった訳だが、三年間本当にいろいろなことがあった。一見山岳部という山に登ることだけに目がいきがちだが、テント生活や事前計画などやることは沢山ある。OBの

方々も指摘されていたが、はっきりいって山岳部は、肉体的にも、精神的にもつらい。必ず人間の素が出てしまう。でもそういうところに山岳部の一番大切なものがあるんだと思う。表面だけの付き合いでなく、お互いを真に理解しあえた時に込み上げるものを感じられること、そこに山岳部の本当の醍醐味があるのだと僕は思った。たまたま僕は、それを最高のタイミングで感じる事ができただけで、これまでの部員全員がそれを得たとは言えないと思う。でもこの満足感を是非、後輩たちにも味わってもらいたいと思う。

これからつらいこと、嫌になることは、たくさんあると思うけど山岳部の本当の醍醐味目指して、二年生これからはがんばれ!! OBの方々本当にありがとうございます。



## 青山柔道部 OB会報告

70回 村田 紀夫

は、同じ釜の飯を食べた仲間、人数は関係なく、一刻をわきあいあいと過ごしました。

会長、結城俊郎氏(62回)の挨拶で始まり、本校佐々木柔道部監督の近況報告、後は、先輩、後輩の区別はなく、例年通りの懇親会へと移行しました。

同好の士とは、良いものですね。年代を離れ、皆若かりし頃へもどり遅しかった頃の話し、お互い名刺交換して、現在の仕事・生活の話し。たのんだり、たのまれたり。部が部ですので、現在とは違いますが、女性がおりません。それも又寂しいけど良いものです。

今回は、連絡網がうまく働かず、又日の選定が悪かったのか、出席者は二二名でありました。本席なら三十名〜四十名の出席がみこまれるのですが、残念な結果ではありました。しかしそこ

### サッカー部OB

1. 日  
平成10年10月3日(土)
2. 場所・時間  
OB戦 新潟市鳥屋野球場  
13:00~  
懇親会 篠田旅館本館  
19:00~
3. 参加人数  
OB戦 70人 懇親会 55人  
青山サッカー部OB会事務局  
〒950-2162  
新潟市五十嵐中島1-13-3  
若杉俊則 ☎025-263-2738  
職場 新潟市役所  
総務局総務部人事課  
☎025-228-1000 内線2076

青山柔道部OB会総会は、同窓会より、早福監事を向え、去る十月十六日、信濃川会館にて開催致しました。

今回は、連絡網がうまく働かず、又日の選定が悪かったのか、出席者は二二名でありました。本席なら三十名〜四十名の出席がみこまれるのですが、残念な結果ではありました。しかしそこ

閉会の辞と柔道部歌を合唱し、来年の再会を約束して散会致しました。

# 青山野球倶楽部

幹事長 71回 中野 久

当倶楽部は、(一)母校野球部の強化発展に協力すること。(二)会員相互の親睦を計ること。を主なる目的として組織されている

現在は大正十五年卒(第33回)～平成十年卒(第106回)まで四九二名の会員により、年会費を資に運営されています。

(一)に関しては、助成費として年間五十万円の寄贈、支援費として物品(平成十年度はマシーン打撃用ケージ)の寄贈等を行っています。

(二)に関しては、他校OBとの定期戦やゴルフ大会等の開催により会員の交流親睦を計っています。

平成十年度の主なる活動を以下に記します。

- ①二月六日 幹事会
- ②三月二四日 総会兼新入会員歓迎会
- ③七月三日 夏の大会に向けての選手激励会
- ④七月五日 第25回青山野球倶楽部ゴルフコンペ
- ⑤八月九日 県高校OB野球大会
- ⑥八月十五日 第22回青山V.S 葦原(新潟商業)定期戦

⑦十一月十五日 第26回青山野球倶楽部ゴルフコンペ

現在各運動部共通の悩みですが、校舎改築の為グラウンド使用が充分に出来ず、現役諸君は週の2/3を他所に練習場を求めて、移動しながらの活動ということで、監督、部長、マネージャー選手諸君の苦勞は大変なものと思われまふ。この状況は平成十四年三月迄続く訳ですので、OB会としては、その間少しでも練習環境が良くなれば、ということを中心と考えながら今後の活動を進めて行きたいと考えています。

(追記) 練習場にお心当りの方は、同窓会事務局あてに、御一報下されば幸いです。

# 青山体友会 の集い

12回青山体友会が十一月七日(土)一時より、錦城閣に於て開かれた。

「ヤアヤア」「ドウモドモモ」おなつかしい、いつもの顔であるがお元気なお顔を拝見すると、タイムスリップして、十年前の体操部の生活がなつかしくおもい出される。同期同窓よりも部活(今はクラブ活動というらしい)の方が、団結が強い。鉄棒、平行棒、鞍馬、吊環、跳馬、徒手と、よくもあんなサーカス見たいのが、昔出来たとは、不思議である。今は、同じ人間なのに。いや感性は永久にのこりますよとは中山大先生の話である。細胞が記憶しているので

しようか。少し位風邪気の時も練習をすると血液循環がよくなるのか、治ってしまふ。「練習に泣いて試合で笑え」ときびしい先輩のもとでの練習の後に、バケツで買ってきたキャンデーのうまかった事等が、なつかしく想い出される。

新潟の体操は新潟中学体操部より始まり、各学校に普及していったのは確かである。体操も時代と共に進歩し、ひねり、とびこし、片手車輪、三回宙返りと限度を知らない。青山体友会も永久に発展させたい。出席者、中山仁(45回) 五十嵐喜八郎(50回) 土田卯八郎(51回) 斎藤兌(52回) 渋谷登(55回) 中川弘(58回) 川上忠男(59回) 横山明裕(82回) であつた。又来年おあいしましゅう。(中川 記)

## 陸上OB

同窓会開催日 8月15日(土)  
参加人数 33名  
場 所 越路会館  
例年お盆前後の土曜日に開催。  
北村太市OB会員をはじめとして新旧の交流を深めました。



ボート部OBの堀川慎太郎氏(95回)が監督助手をつとめた作品「がんばっていきまっしょい」が封切られました。新潟では東映パラスで十二月五日から二週間の上映。

## ボート部OB 映画助監督で活躍

### 坊ちゃん文学賞受賞作の映画化

# 「がんばっていきまっしょい」

この思い出すすべてが、あなたの力になつてくれる。

いえ、ボート漕ぎは結構うまい。いい映画です。高校時代の経験を大いに活かしていると感じました。

平凡な地方都市の、平凡な女子高校生。だれもが経験してきたような思春期の挫折や友情を淡々と描きながらも、ボートに夢中になり、がむしやらに打ち込む少女たちの輝きを瀬戸内の美しい自然を背景に映しています。

原作者の敷島良子さんは縁あつて新潟市在住とか。助監督といい、原作者といい新潟に大いに関係があり親近感をもちました。日本各地で順次封切られていくようです。機会ありましたらご覧になってください。(報告者 75回 渡辺研二)



二十二年前の四国を舞台に、女子高校生達がボートに熱中する青春のひとつを描いた同名の小説(第四回坊ちゃん文学賞大賞受賞作・敷島良子著)を映

### ボート部

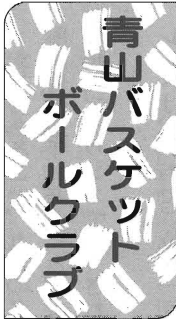
#### 定時総会

#### 三月に開催

青山艇友会(ボート部OB会)の定時総会は、平成十年三月二十八日(土)、新潟市の田中ホテルにて開催。当日は青山同窓会から早福監事が出席。OBは45回の大先輩から101回の若手まで参加。しかし例年より少なめの十九名。

総会は、砂山晃会長を議長に進行。その後、懇親会へ。一時は心配された部の存続、しかし現役が元気に活動していることを聞き安堵。昔話に花が咲き、新校舎の情報等も得ながら大いに語り合い、盛り上がり「ますます」で締め、盛會裡にお開きとなった。

(文責 75回 渡辺研二)



### 青山バスケット

#### ボールクラブ

#### ・新年会 一月三日

一時〜三時  
現役男・女チーム対

OB・OGチーム

新潟高校体育館

OB、OG約50名

四時三十分〜六時三十分  
飯田旅館

OB、OG、歴代顧問約50名  
青山杯

三月二八・二九・三〇日  
当クラブ主催

県内チーム11校  
県外チーム6校にて48試合

・総会 八月十五日  
一時〜三時

現役男・女チーム対  
OB・OGチーム

新潟高校体育館  
OB、OG約50名

四時三十分〜六時三十分  
銀座ライオン新潟

OB、OG、顧問22名  
解体される体育館の床材で記念プレートを作成を計画中で

・コート上の床材にバスケットコート等を彫込んだものを木製プレートに取付けたものです。

### 青山

#### バドミントン

#### クラブ

#### 近況報告

昨年十一月二四日、平成十年度新潟市スポーツ・音楽振興顕彰「表彰において、我が青山バドミントンクラブの宮川忠和氏(65回生)がこの栄えある賞を

受賞されました。今回は第31回ですが、過去に受賞された同窓生は、昭和四三年市嶋智三郎氏(39回卒バドミントン)、昭和四五年朝倉良三氏(29回卒バドミントン)、昭和四九年大里俊一氏(46回卒)、昭和五六年遠藤武也氏(51回卒)の四氏です。青山バドミントンクラブは、これを機に現役部員ともども一層交流親睦を深め今後の活躍を願いつつ、近々創部五十周年記念を迎えたいと思います。

(71回 滝沢 諒記)

## 青山ソフトテニスクラブ

### 平成10年度活動報告

七月十日：会報 第11号発行  
八月十四日：午前九時より現役高校生を含め、OBテニス大会を開催。  
第60回卒 小山功氏以下五十名の参加。  
午後六時より笹口「茜」において、平成十年度会員総会を開催。第42回卒 西山秀夫会長以下本年度卒業生まで四十名の参加。

## ハイティーン水泳

### 新中・新高(28)

#### 60回 平田 大六

48 レース前の闘い  
急な呼び出しで私はあわてて水着をつけ、大黒善弥(50回)監督の後から走っていった。プールでは、すでに他の五人の選手がウォーミングアップを了えてスタート台の前に腰をおろしていた。

一九五〇年八月二三日、国体県予選会男子八百自由型決勝レースの直前である。遅れていた私にウォーミングアップの時間は許されない。  
佐渡高校のライバル武田大司選手は第四のコースの台の前でしゃがんでいた。私のコースはとなりの第三で、二人の並びは午前の四百決勝の時と同じである。武田はふりかえりそこから、おくれたきた私の顔を見あげてきた。

それを私は無視した。  
瞬時、武田の顔面に狼狽(ろらばい)の色が浮んだのを、私は自分の視野ギリギリの限界でとらえていた。武田は、私に何かを云わせたかったのか。……無視する者とされる者。この関係が流れを変えた。集合時刻に

遅れた私のひげめは消え、私に優越の風がまわってきた。そして、審判員のホイッスルが鳴った時には、武田よりも早く私はスタート台に立った！  
このことで、武田の動作と気持ちの中に乱れがおきたことを私は読みとった。プールサイドの応援席や観客はこのやりとりがわからず、午前の四百自由型決勝の時と同じように緊張しはじめた。この静まりは、武田と私との対決への期待だった。  
私の気持ちは闇をぬけていた。心のレベルでは勝ち負けはついていない。スタートの合図で私は宙に飛びながら、潜ってゆく武田の頭を確認できるほど落ちついていった。  
レースの展開は、午前の四百決勝のような盛り上がりではなかった。プールサイドでは最後まで興奮していたそうだが、二百メートルあたりで先行の武田に追いつき、並びながら徐々に徐々に私がリードし、ゴールでは私が二メートル位水をあけていた。私は10分56秒8、武田59秒2。

佐渡高校のライバル武田大司選手との対決戦は終わった。私は、九月の名古屋である第五回国体の出場権を得た。武田はこのあと中距離に転向してゆき、私との対戦はこれが最後となってしまった。次の相手は誰なのか、まだ見えてはいない。  
一時(いつとき)の休をもらって故郷の関川村に帰っていた時、大黒監督から電報がとどいた。

#### 49 岩船郡大会にも出場

一九五〇年八月二三日の県予選会で国体選手になった私は、夏休みの残りの数日故郷の関川村(女川村)に帰っていた。そこへ電報がとどいた。  
アスイワフネグンセンシユケンアリムラクウブールヘオイデ」ダイコク

発信は大黒監督だ。家庭にはとんど電話のない時代だ。私の所にもない。大黒監督のご母堂は村上出身で、大黒監督も私と同じに夏休みだったのだ。  
その日、水着を持って一番列車で村上高校のプールへ行行った。プールサイドの机の上にはラムネやノート類など白い紙に包まれた賞品が積まれていた。大黒監督もおられたし、村上高校水泳部監督の遠藤先生をはじめ顔見知りの選手たちもいた。私より一年上の村上高校短距離のエー

ス片野卓弥(故人)さんもいる。私の出場種目は四百と八百で、岩船郡選手権といっても相手はみな村上高校生だった。レースの前に、平田は岩船郡女川村出身で現在は新潟高校だからオープン参加であること、九月の名古屋国体の選手であること、などが場内アナウンスで紹介された。

レースは、四百で二位を一回(まわり(五〇メートル)抜き、八百では二回り、で優勝した。オープンなので賞品はもらえなかった。わるかったな、と

# 母校は今

何よりもまず、前号の記事の誤りをお詫びし、訂正しなければなりません。

青木校長が本校同窓生の二代目の校長である、というのは間違いです。初代同窓校長である阿部藤策先生(通算第19代)の後、小野塚忠義(同21代)、渡辺芳雄(同22代)両先生がおられ、青木先生は同窓第四番目の校長というのが正しい。記事を書くに当たって正確な下調べが不足していたことをお詫びいたします。

そもそもそれ以前に、その第21代小野塚校長先生が青木校長

大黒監督に云われたが、レース中にカウント(註)してくれたり、ゴールでひきあげてくれたりした村上高校水泳部の人たちの親切さがうれしかった。

前述の片野選手は、私の義兄の遠縁にあたっていた。帰り道、高歯を鳴らして独りで村上の街を歩いていて、私はたまってしまった夏休みの勉強のほうの宿題を思い出していた。ああ。

(註) カウントはレース中にターンで顔をあげた時に選手に大声で距離を知らせること。

先生の義父にあたられ、「岳父子二代の新潟高校校長」というところまで承知していながらの間違いで、弁解の余地がありません。

会報印刷直後に自分でも気が付いたのですが、訂正が間に合いませんでした。また、会報を読まれた方からのご指摘もいただきました。余程お気に障られたことでしょうか。有難うございました。

「青山百年史」から引用します。「小野塚校長は明治四三年二月生まれ、本籍地は中蒲原郡横越村。昭和二年三月本校を卒業(34回)。新潟高校を経て東京帝国大学文学部社会学科卒業。戦後、二三年に本校の教諭とな

る。……三十年に本校教頭となる。……教育次長を歴任の後、本校校長となる。三度目の母校への奉職である。……しかし突然県教育長に就任することとなった。後任として着任したのは本校を小野塚校長と同期に卒業した渡辺芳雄である。渡辺校長は明治四三年三月生まれ、本籍地は北蒲原郡長浦村である。昭和二年三月本校を卒業(34回)。

新潟高校を経て東京帝国大学文学部西洋史科を卒業し、……二九年に新潟県に再転入。……新潟南高校長を歴任の後、本校校長に着任。五七歳の秋のことである。」

この本くらは、通読のうえ常に手元におかなければ。

なお、同窓生で本校の教頭を勤められた方は特に教えておりませんが、現在の坂井教頭と青木校長とで校長・教頭そりい踏みが史上初、というのは間違いありません。

一旦詫びは済んだとして、前述の「青山百年史」について一言。今になってこの本のいわゆる引き合いがきて少し困っています。現在学校には譲ることもできるものは一冊も残っていません。内容のいい本であるだけになおさら、歯痒い気持ちがあります。つい先日、兵庫県内のある高校からお互いの百年史

の交換を、といってきましたが、断らざるを得ませんでした。その学校は神戸高校を先例として問い合わせてきたのですが、神戸高校は先に自校の百年史を送ってきて、こちらのも下さい、というやり方だったので二年前に教頭先生が苦勞して個人の所有物を調達して送っていました。後発の高校の話では、神戸高校は全国四百五十校の高校の百年史のコレクションがあると豪語しているそうです。そのこと自体はいい事ですが、これ以上ない袖は振れません。

同窓校長とか、百年史の収集とか、こだわって狭い道に迷いこむと私の様に失敗しますよ、という教訓が今回のテーマ。

## 随想

(校内幹事 69回 山田 栄)

昨年十一月の東京青山同窓会総会で、私個人としては二年ぶりで斉藤英四郎さんのお姿を拝見しました。「心配するな。」「大丈夫だ、いまに良くなる。」というような言い方で、良寛の遺言としてこれを引用され、今の世の状態を慰めておられた。「新潟にいても、もう一緒に飲む相手がなくなつてねえ。」ご存じの通り、君健男元新潟県知事と同期。昭和四年、第36回

高校に入つてまもなくの休み、先輩たちがクラブ勧誘のため我々の教室を回っていた。その中で、今でもはつきりと思いつける強烈な印象の先輩がいた。

「俺の顔が崩れているのはラグビーをやったからじゃない。だからみんなも安心してラグビー部に入ってほしいんだ。」その先輩の顔とラグビーボールを見比べて、緊張気味だった一年生からドツと笑いがもれた。

### 同級生のお店紹介 『こんな店、行きたい!』 シリーズ

あるこ〜るコミュニティー  
**Wallaby** (ワラビー)  
 80回(1972年卒) 片山 修さんの店  
 新潟市古町通8番町(大岩ビル2F)  
 ☎ 025-224-4584



高校に入つてまもなくの休み、先輩たちがクラブ勧誘のため我々の教室を回っていた。その中で、今でもはつきりと思いつける強烈な印象の先輩がいた。

「俺の顔が崩れているのはラグビーをやったからじゃない。だからみんなも安心してラグビー部に入ってほしいんだ。」その先輩の顔とラグビーボールを見比べて、緊張気味だった一年生からドツと笑いがもれた。

今ワラビーのカウンターに向かつて悪友と飲んでると、S.M.A.Pの歌詞ではないけれど自分の中では、あの頃から何がどのくらい変わったのかと思う。

カウンターの中には「マスター」よりも「先輩!」と呼ぶ

ぶほうがしつくりくる片山さんがいて、「ニコニコと話を聞いてくれる。県外から帰省すると、まずここに顔を出して仲間の近況を聞くという人や、カミさんを連れてくる後輩もいる。お客はラグビー部、サッカー部だけでなく、同窓生だけでなく、「あの頃の自分」にタイムスリップしたい人すべてということか。

店名の「ワラビー」はラグビー部副将だった片山さんが大好きなオーストラリアのナショナルチーム「ワラビー」にちなんで。お店に行けばマスケットのワラビー(小型カンガルーのぬいぐるみ)にも会える。

新年会、二次会をワイワイやりたい時には是非お問い合わせ。バーボン、カクテル、輸入ビールの種類には自信あり。この同窓会報持参のかたにボトル原価サービス、もしくはカクテル一杯サービスの特典つき。

さあ!あの懐かしい「部屋」の雰囲気味わいに行こう。(82回・S)

さあ!あの懐かしい「部屋」の雰囲気味わいに行こう。(82回・S)

予告

67回卒 卒業40周年記念同期会

日時、平成11年5月22日(土)午後6時より、23日朝解散、会場、月岡温泉ホテル清風苑、会費男性2万円、女性1万8千円。近々詳細案内が発送されますが、問い合わせは石田まで。

卒。お生れが明治四十五年とお聞きするから満八十七歳である。東京の青山同窓会には欠かさずご出席ください。

これより前、昨年七月の青山同窓会総会の案内の返事に、一通こういものが入っていた。

「玉木繁治は平成九年十月に永眠いたしました。」……これもご存じの方がおいでかもしれない。ここ数年、毎年総会に合せて発行する会費納入者の名簿の筆頭にお名前が出ていた方だ。

つまり会費納入者の中で卒業年度が一番若いということ。明治四四年、第18回卒。単純計算で明治二十六年生まれ、没時百四歳ということになる。同窓会会

報の編集委員の間でも話題になり、ご健在を確認して、できたらご本人の談話を記事にしよう、と話し合っていた矢先のことであつた。

平成四年発行の青山百年同窓会名簿によると第3回(明治二九年)卒にお一人、逝去となつていない方がいる。しかしこれは、確認がとれないから名前を上にしてある可能性が大きい。

住所が載っている方はもう少し信憑性が高いとみられる。第9回(明治三五年)にお一人。11回、13回と続き、14回以降、パパラと途切れることなく現在に至っている。平成十四年、本校百十周年に名簿の改訂版が出る

るとき、このクサビの先端がどの位退行することになるのだろうか。同窓会などという組織は、会の性質上そういう傾向が一番顕著だ。年令順に連なつた山の、上からこぼれていってしまう。

自然なことではあるが。明治末に本校を卒業された玉木さんが静かに逝かれて、奇しくもその明治末に産声をあげられた斎藤さんが元気に我々後輩を指導してくださる。正に川の流れるように。

ただ、我々裏方役としては簡単に悟ってしまったているわけにはいかない。生の声を聞いてお

かなければならない。記録にとっておかなければいけない。歴史の流れが途切れないように、ミッシング・リンクをかき集めなければ。

それには時間が足りない。ただでさえ行動が早いとはいえないのに、先を急ぐ方々を追う脚力の不足を痛感する。諸先輩方、まだ早い。まだあなた方の使命は終わっていない。我々に全てを伝えてくれるまで、同窓会名簿の反対側に名を連ねられては困る。

具体的な話をしたい。まもなく仮校舎から移動して授業を始める改築校舎に視聴覚教室がある。名前は視聴覚だが内容は講堂、いわゆるステージである。

ここで何をやるか。少し手前みそになるが、この

会報に執筆してくださいの方々の業績とその文章の内容はすばらしい。これがそっくり講演会に移行したらどうだろう。否、これまでの方々はほんの氷山の一角であり、まだまだこの紙面に顔を出されていない方々がおられ、更にこれからどんどん生まれてくる。早い話が同窓生全員が講師候補である。まだ夢の段階だ。

夢は広がる。「一度学校を見に行くかな、昔の面影が残ってゐるかもしれない、建川と喧嘩したところも思ひ出されるかもしれない。さうだ、その時生徒に講演しやう。」会津八一(「あおやま」第一号より青山百年史)建川とは「硬派はいうまでもなく建川美次の一派で、後に陸軍中將になつただけにこちこちの硬派だった。「敵中横

断三百里」かの小説の主人公になつたのは、日露戦争中斥候に出て大胆にも敵の背後に出、敵軍にまぎれてその本隊の大移動を確認し、日本軍大勝利の原動力になつたものである。この建川らの硬派が、歌だ俳句だ小説だというわれらを軟派とし、ここに両派が雌雄を決することになつたのだ。場所は学校の裏浜

編集後記

☆母校新校舎が完成し、引き渡しを待つばかり。今年卒業の三年生も新校舎で最後の授業を受けて卒業できるといふ。うれしいことです。

☆会報の新年号には、現職の国會議員、県知事、新潟市長がOBの場合にはご挨拶をいただくことになつている。長引く経済不況の克服が急務の国政の場で

☆吉田六左エ門氏、昨春秋に見事三選を果たされた、長谷川義明市長、それぞれの今後のご活躍を期待しています。

☆ブルガリア大使に赴任の松井さんに原稿依頼をFAXで。折り返しFAXで原稿が送られて来た。文明の利器で、世界が広がって近くなりました。

☆東京青山同窓会は、斎藤会長から、栗林会長にバトンタッチ。

で、かぼちゃ畑や松林、それから向うは広い砂浜が海まで続いていた。今のように金衛町の人など一軒もなかった。」同(渡辺秀英「会津八一の郷像」より青山百年史)

関西は、一昨年の懇親会を手初めに、昨年の二回目の懇親会の席上で、関西青山同窓会として

の発足を誓い、佐藤幸治氏を会長に推挙。後輩が、甲子園や花園に来てくれることを待望、とのこと。

☆今年一年が同窓各位によき年であるよう祈念しています。

(石)

青山同窓会収支決算書・収支予算書

(自 平成9年4月1日 自 平成10年4月1日) (至 平成10年3月31日 至 平成11年3月31日)

Table with 3 columns: 科目, 平成9年度決算額, 平成10年度予算額. Rows include 繰越金, 入会金, 会費, 雑収入, 合計.

Table with 3 columns: 科目, 平成9年度決算額, 平成10年度予算額. Rows include 人件費, 通信費, 印刷費, 慶弔費, 会報印刷費, 会議費, 卒業生記念品代, 補助費, 退職積立金, 諸費, 予備費, 合計.

次年度繰越金 2,920,125円 平成10年4月27日 監事 早福 卓 (自) 上杉 雅之 (監)





平成十年度青山同窓会会費納入者名簿1

(4月より12月上旬まで納入済みのもの)

未納の方は3月までに納入下さるようお願い致します。
1口1,000円できるだけ2口以上をお願い致します。

(郵便振替口座 00650-7-4455 青山同窓会)

- List of members and their contributions, organized by year and amount. Includes names like 久広司夫, 武善隆正, 藤野賢水, etc.